

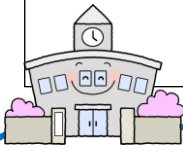
1 教育目標

未来を切り拓くための資質・能力の育成

～自ら学びに向かい、仲間やふるさとを大切に、たくましく生きる児童の育成～

知 徳 体 にわたる「生きる力」を育む

「子どもを主語にする教育」の実現



2 めざす学校像

○新 Well Being

児童・教職員が楽しく生き生きと学び、働く学校

○信頼

家庭・地域から信頼される学校

○安心・安全

児童・保護者にとって安心・安全な学校

3 めざす児童像

○全力 自ら学び よく考える子

○協力 心豊かで思いやりのある子

○持続力 ねばり強くたくましい子

○新自浄力 自ら考え 正しい価値に向かう子

4 めざす教職員像

○新組織貢献力

学校経営方針を理解し、心身共に健康で、明るく意欲的に組織の一員として力を発揮する教職員

○新機動力

協働的に取り組む教職員

○信頼

児童や保護者から信頼される教職員



New 重点No1

令和5年度
学校経営の重点

1 タブレット端末と対話を生かし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点を踏まえながら、子ども達が「分かる授業」を目指す。知

- (1) ねらい達成のための効果的なタブレット端末の活用を組織的に実践する。
- (2) 学力調査等の結果を基に基礎学力を確実に定着させた上で、個々に応じたきめ細やかな指導の工夫を実践する。
- (3) 基礎学力及び自学力そしてタブレット端末の活用力を伸ばすための帯タイムを計画的に実施する。
- (4) タブレット端末を活用した家庭学習の充実のため、保護者の協力体制を工夫する。



2 教師力を伸ばす。知

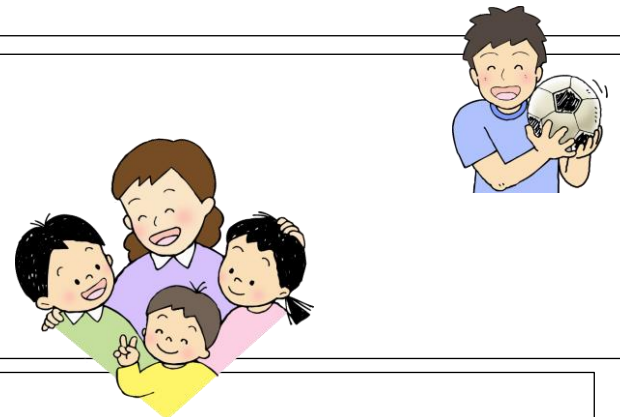
- (1) 「教師は、授業で勝負する」という意識を強く持ち、GIGA スクール構想の趣旨を理解しつつ、学校研究に沿った授業の共通理解共通実践を図り、効果的な1人1台端末の活用を図る。
- (2) 授業力向上に向けて、授業研究会には、前向きに参加し必ず発言する等教師集団が「学び合う」姿勢をもつ。
- (3) 人事評価制度を教師力向上に活かすため、自己評価が可能な目標を設定し、実践を積み重ねる。
- (4) 令和の対話型若手教員育成プログラムにおいてお互いに指導したり、されたりすることにより自らの教師力を伸ばす。

3 児童の「人間力」を育てる。徳・体

- (1) 「挨拶が進んでできる」「返事ができる」「黙って掃除する」「時間を守る」などの生活習慣を身に付けさせるため、全教職員がまず実践し、ほめることを中心とした粘り強い指導を行う。
- (2) 読み聞かせや図書室運営を工夫するなど読書活動の充実を図る。
- (3) 思いを素直に表現でき、それを友達が認めてくれる穏やかな学級づくりのためにアンケートを計画的に実施分析し、対応策を講じる。→自己肯定感UP&承認
- (4) 心に響く道徳の授業づくりに努めるとともに、全教育活動で道徳教育を推進する。→「考え・議論する道徳教育の推進」
- (5) 「スポチャレいしかわ」「なわとび」や体力課題を意識した外遊びなど体力向上の取組を全校で実施し運動能力の向上を図る。

4 信頼される教師・学校を目指す。

- (1) 教育公務員としての自覚を持ち、働き方を意識した自己管理能力を高める。
- (2) 服装・時間厳守・電話・来校者への対応など、職業人としてのマナーを実践する。
- (3) 保護者や地域の声を真摯に受け止め、対応を丁寧且つ迅速に行う。
- (4) 正確な情報収集と丁寧な情報発信を行い、学校としての説明責任を果たす。
- (5) 地域のモノ・ヒト・コトを積極的に活用し、開かれた学校づくりに努める。



5 危機管理の徹底を図る。

- (1) 学校外へ配布する文書は事前に管理職へ見せる。
- (2) 保護者や地域への対応については、事前に管理職に相談し対応を検討する。報告・連絡・相談の徹底 未然防止
- (3) 危機を予想し、未然に防ぐ最大の努力をする。万一、事故等が発生したら被害を最小限に食い止めるため、一致協力して迅速に行動する。